



TITLE:

2000年度岩本ゼミ年間活動報告

AUTHOR(S):

藤中, 康生

CITATION:

藤中, 康生. 2000年度岩本ゼミ年間活動報告. 岩本ゼミナール機関誌
2001, 5: 86-88

ISSUE DATE:

2001-03-26

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56889>

RIGHT:

2000 年度岩本ゼミ年間活動報告

文責 藤中康生

本年度は、一時はゼミの存続が危機にさらされたこともありましたが、なんとか一年間を終えることができ、21世紀へとバトンタッチすることができました。春夏の合宿、第2回の青竹会、そしてゼミ史上最多の6校とのインゼミと、内容も充実した1年だったのではないかと思います。

以下、本年度の活動を簡単に記していきます。

4月3～5日 春合宿

本年度の春合宿は、先生の地元である広島で行われました。合宿では例年薄めのテキスト数冊を用いていましたが、本年度は前期学習予定だった国際貿易の事前準備として、「入門・国際経済学」（石井安憲他著 有斐閣）1冊をじっくりやることにしました。理論中心でとっつきにくかったにもかかわらず、新2回生のプレゼンが見事でした。先生やTAのみならず、3回生の数名からも発言があり、去年より僕達の代は幾分進歩が見られましたが、まだまだ不十分だと思いました。

前期

例年通り、テキスト「国際経済 I 国際貿易」（クルグマン・オブズフェルド著 新世社）の輪読が行われました。発表者以外も巻き込んだ議論になったこともあるにはありましたが、量・質とも十分ではなかったと思います。詳細な日程と内容は以下の通り。

- 4月18日 労働生産性と比較優位：リカード・モデル
- 25日 特殊要素と所得配分
- 5月9日 資源と貿易：ヘクシャー＝オリーン・モデル
- 16日 貿易の基本モデル
- 23日 規模の経済、不完全競争と国際貿易
- 30日 上の続き
- 6月6日 国際要素移動
- 13日 地域経済問題
- 20日 貿易政策の手段
- 27日 貿易政策の政治経済
- 7月4日 発展途上国における貿易政策
- 11日 先進国における産業政策

9月1～3日 夏合宿

今世紀最後の合宿は、何箇所か挙げられた候補地の中から多数決で選ばれた、三重県伊勢志摩で行いました。エアコンから調理器具まで揃った格安のコテージ、便座が自動的に開くという最新式のトイレ(!?)など施設は最高に充実していましたが、交通の便が恐ろしい程悪く、コンパや自由行動の時大いに困りました。

メインの勉強の方は、対関学・阪大の「アメリカ」班と、対高経・神戸/同志社/明治の「アジア」班に分かれて発表を行いました。インゼミへ向けての意識・基礎知識の定着、秋以降の勉強の進め方の具体化、といった面では一定の効果があったと思いますが、お互い相手の班の発表には関心薄、だったように思います。就職活動を終えた4回生も含めて、全員が関心を持って議論に参加できるような発表内容、問題提起が来年以降の課題です。

使用テキスト：アジア安定通貨圏（村瀬哲司著 けい草書房）

アメリカ経済の繁栄は続くか（佐藤裕一・永井靖敏著 東洋経済新報社）

青竹会

2年前と同じく敬老の日（9月15日）に、コープイン京都にて第2回青竹会が開催されました。OB・OGの方が20名近く来て下さり、先生や先輩方にとっても我々在学生にとっても非常に有意義な一日だったのではないかと、思います。

後期

夏合宿でできなかった部分（入門・国際経済学の一部）を行った後は、インゼミ対策のプレゼンをアメリカ班、アジア班交互に行いました。各々の班がサブゼミで勉強したことを発表するという形で、ディベート直前期には実戦形式の模擬ディベートも行いました。

研究室を使わせてもらうことができなかった為、今年のサブゼミはゲリラ的にあちこちで行われました。ある時は空き演習室、ある時は喫茶店、ある時は総合人間学部校舎。非常事態に陥ったにも関わらず、皆夜遅くまで頑張っていたと思います。インゼミは4週間連続という少々ハードなスケジュールでしたが、皆通常ゼミでは得られない充足感がある程度得られたのではないのでしょうか。

10月 3日 開放マクロ経済学の基礎

10日 為替レートと経常収支

17日 開放下のマクロ経済政策運営

10月24日～12月4日 インゼミ対策

インゼミ日程

11月18日 対高崎経済大学矢野ゼミナール ディベート

25日 対関西学院大学鈴木ゼミナール ディベート

12月 2日 大阪大学阿部ゼミナール 合同勉強会

9日 神戸藤田ゼミ・同志社藤原ゼミ・明治高浜ゼミ 合同勉強会

参加者

高経班：藤中(康)、サムナン、斎藤、清水、伊澤、バイラ、畑中、河村、竹内、西海

関学班：酒井、米崎、チョウ、大塚、熊野、櫻本、城山、山村

阪大班：藤中(智)、舟橋、熊野、櫻本

4大学合同ゼミ：藤中(康)、サムナン、清水、伊澤、バイラ、河村、西海

総括

今年の通常ゼミに関しては、少し傲慢な言い方かもしれませんが、僕はやりたいうようにやらせてもらいました。僕が2回生の時1年間ゼミに出ていて、良いと思ったところはより良くし、改善しなければならなかったところは改善するよう心がけたつもりです。目に見える効果は（それがプラスのものであれマイナスのものであれ）多少はあったかもしれませんが、自分のゼミ長としての資質の欠如、勉強不足をただただ噛み締めることとなっていました。そんな僕を暖かく見守ってくれた、岩本先生、柴田さん、藤嶋さん、先輩、そして2・3回生の皆さん、この場を借りてお礼申し上げます。

「個々人がゼミにかけるウェイトは自由だ。」とある人から言われました。確かにそう思います。しかし、数あるゼミの中からこの岩本ゼミを選んで入ってきたということは、何かこのゼミに惹かれたところ、このゼミで勉強してみたいこと、(勉強に限らず)やってみたいことなど、何かしら思うことがあったはずです。そういう「初心」とまではいかないにしても、ゼミで思った素朴な疑問、質問、何でも構わないので、もう少し積極的に自分の意見を主張して欲しかったと思います。毎年この場で言われていることなので敢えて具体的には書く必要はないでしょうが、上で述べたような初心を少しでも忘れずに持っていれば、「ゼミへ関わる態度」ももう少し違うものになってくるのではないのでしょうか。

4月からは、第9期生7名が新たに仲間に加わります。新ゼミ長の城山卓也君を中心に、8期生の諸君にはゼミをしっかりと運営して欲しいと思います。僕達7期生がどれだけのことを後輩に示せたのか甚だ疑問ですが、今年の経験が少しでも来年以降に活かされれば幸いです。

新世紀も「進化し続ける」ゼミであることを願います。

年間皆勤者：藤中(康)、熊野、西海